

戦国の世を駆け抜けた稀代の名将
伊達政宗のゆかりの地「たかはた」



独眼竜と呼ばれた政宗と伊達氏の
足跡を、まほろばの里に訪ねる



山形県 高島町

史跡探訪

しせきたんぼう

奥州の雄藩としての地位を築きあげた伊達家。その歴史を紐解くと、まほろばの里『高島』に出逢うことができます。

建久3年(1192)、鎌倉幕府誕生とともに、置賜の地は長井氏によって支配されていました。しかし、天授6年(1380)、伊達家8代当主宗遠が長井氏を滅亡。以降14代植宗に至る約150年間、屋代(高畑)が伊達家支配の拠点とされました。

悠久の時の流れを経た今、ここ高島には、伊達家の基礎をつくりあげた猛者達の足跡を伝える、史跡の数々に触れることができます。

政宗の生涯

「独眼竜」の異名で知られる、伊達政宗(17代貞山)。5歳の時右眼を疱瘡で失いましたが、乳母の喜多、守役の片倉小十郎、師匠である虎哉和尚たちのもとで成長し、18歳で家督を継ぎました。政宗時代の伊達家の勢力は、種宗・晴宗をはるかに超え、南奥州は統一へと向かったのです。天正19年(1591)、政宗25歳の時、秀吉の命令により、置賜の地を後に、岩出山(宮城県)へ移封されました。独眼竜政宗の誕生に際して、父輝宗が、亀岡文殊堂の長海法師を通じて、湯殿山に向き護摩を行い政宗が誕生した、という伝説が残されています。亀岡文殊堂は、日本三文殊に数えられ、大同2年(807)、徳一上人によって開かれました。願望成就、智恵の文殊として受験シーズンなどには、全国から多くの参拝客で賑わいます。



亀岡文殊堂

十七代貞山

伊達政宗

略年表(米沢時代)

幼少時の伊達政宗公は、山形県高島町夏刈に在った資福寺にて住職であった虎哉宗乙和尚より学問を学びました。

資福寺跡に隣接する場所には、政宗館や夏刈城といった館跡のなごりが残っており、後に重臣となる片倉小十郎、伊達成実らとともに少年時代を過ごしたといわれています。

永禄10年(1567年) 政宗 1歳

出羽国米沢城に生まれる。幼名梵天丸。その後、幼少時に疱瘡(天然痘)に罹り右目を失明する。

天正13年(1585年) 政宗 19歳

人取橋の合戦
人取橋(福島県安達郡本宮)にて佐竹氏、蘆名氏など3万の連合軍と戦い勝利。

元龜3年(1572) 政宗 5歳

伊達家の学問寺である資福寺にて臨濟宗の虎哉宗乙禅師による教育が始められる。

天正17年(1589年) 政宗 23歳

摺上原の合戦
摺上原(福島県耶麻軍猪苗代町)の戦いにて会津の蘆名義広、佐竹氏の連合軍と戦い勝利。奥州の覇者となる。

天正3年(1575年) 政宗 8歳

片倉景綱が守り役を命ぜられ側近となる。

天正18年(1590年) 政宗 24歳

小田原討伐に参陣し、豊臣秀吉に従属する。

天正5年(1577年) 政宗 10歳

元服。藤次郎政宗と名乗る。
2年後、三春城主田村清頭(清頼)の娘愛姫を正室とする。

天正19年(1591年) 政宗 25歳

豊臣秀吉より、一揆扇動の嫌疑をかけられ、玉造郡岩出沢城58万石に減らされ移封される。(後に岩出山城と改称した)
伊達家代々の本領であった伊達、長井、信夫、刈田、二本松、塩松、田村を没収され、米沢城を引き払うこととなった。

天正9年(1582年) 政宗 15歳

15歳で初陣し勝利を収める。

天正12年(1584年) 政宗 18歳

18歳で家督を相続し伊達家17代を継承する。



重文
黒漆五枚胴具足
伊達政宗 所用
仙台市博物館 蔵

- ◆ 十七代 政宗(貞山)
- ◆ 十六代 輝宗
- ◆ 十五代 晴宗
- ◆ 十四代 植宗
- ◆ 十三代 尚宗
- ◆ 十二代 成宗
- ◆ 十一代 持宗
- ◆ 十代 氏宗
- ◆ 九代 政宗(儀山)
- ◆ 八代 宗遠

伊達氏系譜
(米沢時代)

八代
伊達宗遠



高知城跡

屋代(高知)を居城に定めた宗遠は、大崎、信夫、刈田地区のほか、柴田、伊具を支配しました。また、時の権力者であった足利権威とも交流を図り、中央への貢献に務めたのです。

屋代(高知)は、承安年間(1171~)藤原秀衛のいとこ樋瓜五郎季の築城と伝えられ、形状がつり鐘に似ているため、別名を鐘ヶ城衡と呼ばれていました。

なぜ屋代(高知)が拠点に？

伊達氏は、本拠地を米沢城(長井氏の居城)ではなく、高島の地を選びました。これは、高島が、赤館城(伊達氏の居城)に近く、二井宿峠を控えた要害の地であったことなど、軍事・政治の両面に適していたためです。

九代 儀山
伊達政宗

宗遠の嫡子第九代当主政宗は、柴田、名取、宮城などへ進出し、これにより伊達氏の領国範囲が、ほぼ決まりました。屋代(高知)が名実ともに置賜の中心城となったのです。また政宗は、応永4年(1397)に上洛し、将軍足利義満の謁見を許されました。

文武両道に優れた彼は、和歌の分野でも才能を発揮し、『新続古今集』に収められている「山家の雪」、「山家霧」は有名です。

- 山家の雪 中々につづら折なる道絶えて
雪に隣の近き山里
- 山家霧 山合の霧はさながら海に吠て
波かと聞けば松風の音

応永12年(1405)9月、53歳で死去した儀山政宗の墓は野手倉と資福寺跡にあり、野手倉にあるお墓の左側には足利義満の生母の妹である正室、紀氏が眠っています。



儀山政宗公墓所

十四代
伊達植宗



安久津八幡神社

14代植宗の時代に移ると、さらに領国体制が進展し、伊達家の悲願であった陸奥国守護職の地位を得ました。植宗は、また「塵介集」「棟役日記」「御段銭古帳」を成立。伊達家の基盤を固めたといえます。

しかし、15代晴宗と6年間におよぶ内乱(天文の乱)を招き、家督をわたす結果に終わりました。

伊達家の父子抗争／置賜時代の伊達家では、父子の抗争が相継ぎました。12代成宗と13代尚宗、13代尚宗と14代植宗とがあり、当時の家督相続の難しさを現しています。

高島町のシンボルである安久津八幡宮。永承6年(1045)と寛治年間(1087)に源義家が安倍一族追討の折に陣を敷き、鎌倉八幡宮の分霊を祀ったと伝えられています。天文5年(1536)植宗は、安久津八幡宮の本殿寄進を行い、手厚く保護されてきました。

十六代
伊達輝宗

幼名を彦太郎(又は総次郎)といい、弘治元年(1555)足利義輝の一字を受け、輝宗と名乗りました。思慮深い人柄であった輝宗は、当時の権力者織田信長に奥州名物の鷹を献上するなどして、中央とのコンタクトを密に図りました。

伊達家は、父子抗争が絶えない状況にありましたが、動乱の戦国時代のなかで、輝宗は、たくみに次世代への橋渡しを成し遂げたひとりです。働き盛りのうちに家督を政宗に譲り、みずから後見人にまわりました。

天正13年(1585)、輝宗は、畠山義継に突然拉致され、42歳で不慮の死を遂げました。資福寺跡の夏刈の他に、輝宗とその重臣遠藤山城守基信を葬った五輪塔があります。



伊達輝宗公墓所

虎哉和尚

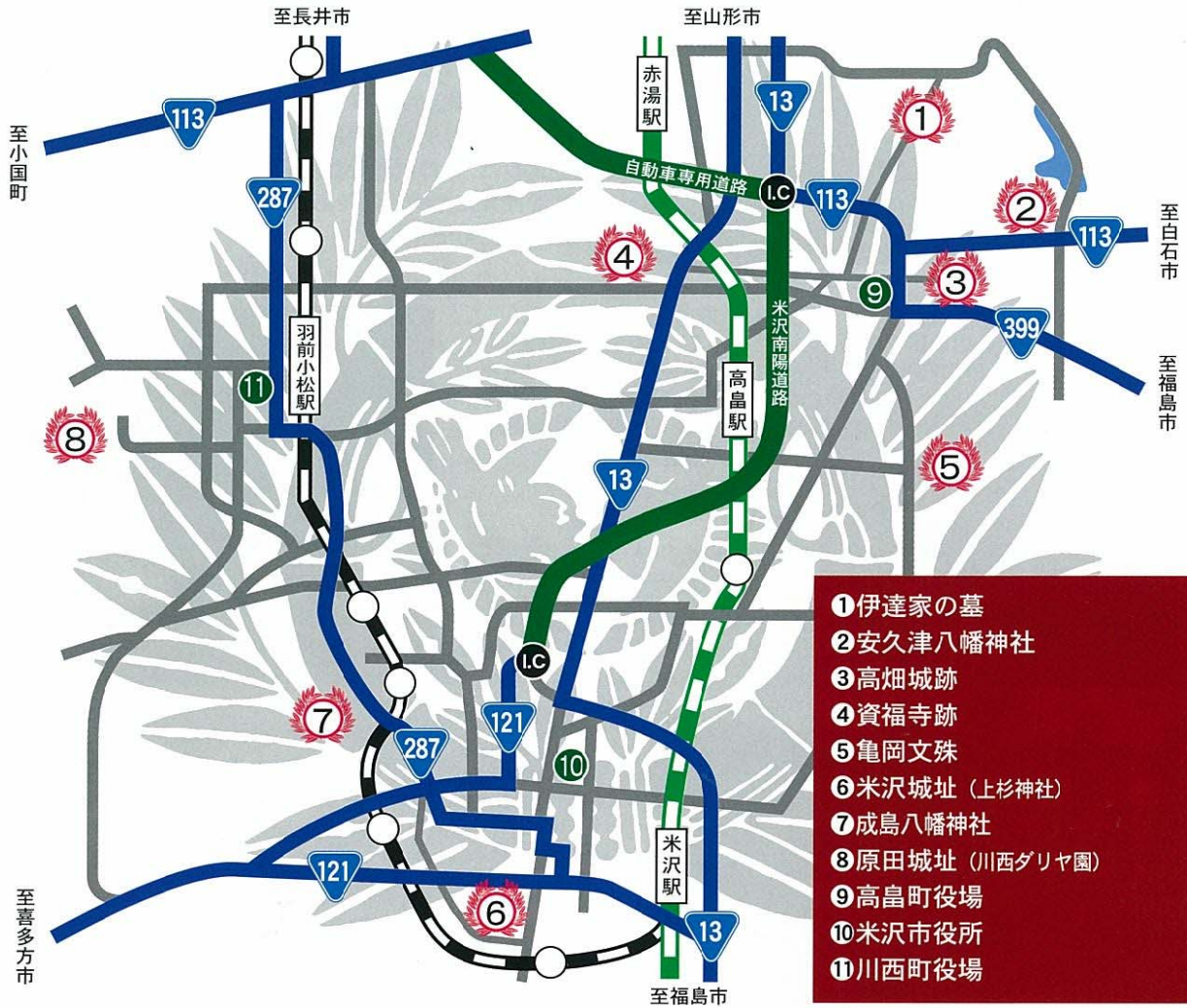


資福寺跡

資福寺の住職であった虎哉和尚は、幼名を虎千代といい、住まいでの寺から聞える読経を全て暗誦したといわれ、仏教に強い関心を示しました。「心頭滅却すれば火も亦涼し」の名文句を残した快川和尚の門をたたき、名を虎哉と改めました。虎哉和尚と資福寺との結びつきは、16代当主輝宗が政宗の師匠に招いたことに始まり、時に虎哉和尚43歳のことでした。

資福寺は、弘安年中(1278~87)長井時秀西規が、領内夏刈の地に、鎌倉建長寺の僧紹規を招じて建てた寺で、置賜の中心にありました。この地に伊達氏が夏刈城を築き、資福寺を帰依寺、学問寺として保護しました。

伊達氏ゆかりの史跡



- ① 伊達家の墓
- ② 安久津八幡神社
- ③ 高畑城跡
- ④ 資福寺跡
- ⑤ 亀岡文殊
- ⑥ 米沢城址 (上杉神社)
- ⑦ 成島八幡神社
- ⑧ 原田城址 (川西ダリヤ園)
- ⑨ 高島町役場
- ⑩ 米沢市役所
- ⑪ 川西町役場

⑥ 米沢城址 (米沢市)



暦仁元年(1238)長井時広の築城と伝えられ、松岬城と称した。時広は源頼朝の重臣大江広元の次男で、奥州侵攻の軍功により文治5年(1189)長井庄地頭となる。長井氏治世191年に及ぶ。

康暦2年(1380)伊達氏8代宗遠(むねとお)が、長井氏8代広房を滅ぼして長井庄を領した。15代晴宗が天文17年(1548)米沢城に移り伊達氏治世212年間の間、伊達氏の本城として奥州躍進への拠点となった。

17代政宗(貞山)はこの城で生まれ、天正19年(1591)豊臣秀吉により岩出山に移封されるまでの25年間、この地で過ごした。

⑦ 成島八幡宮 (米沢市)



米沢市西部、鬼面川西岸の高台に鎮座する神社。

古くから、置賜郡成島荘の鎮守として崇敬をあつめ、長井氏、伊達氏、上杉氏といった歴代領主によって、改築・修理が行われてきた。

伊達政宗(17代)は、八幡神社への信仰が篤かったらしく、米沢から岩出山へ移る際に、この成島八幡宮を分霊し、岩出山城内に祀られた。

後に、政宗は仙台開府にあたって、総鎮守として大崎八幡宮を創建し、大崎地方にあった大崎八幡宮と米沢から分霊してきた成島八幡宮を合祀しました。現在、大崎八幡宮社殿は国宝に指定されている。

ちなみに、政宗の参謀であった片倉景綱は、この成島八幡宮の神職であった父・片倉景長の次男として生まれました。

⑧ 原田城址 (川西町)



伊達家宿老原田氏の居城。平山城で三方が崖に囲まれ、規模は東西350m・南北100mとされ、大手は南側、西が本丸、東が二の丸で、それぞれが空堀で区切られている。

伊達家の岩出山移封まで米沢北郊の戦術的支城の役割を担った。最後の城主、原田左馬介宗時は18歳で家督を継ぎ、伊達政宗の軍事において顕著な戦功を挙げた。豊臣秀吉の朝鮮出兵の際には伊達家臣団の一人として朝鮮半島へ渡ったが、間もなく病を患い、対馬で没した。出陣の際には馬にまたがり2m70cmという長い太刀を金の鎖を巻いて背負うなど、さすがは伊達者と言われたエピソードも残る。

宗時の二代後にあたる原田甲斐宗輔は仙台藩伊達家の家老となり、1970年のNHK大河ドラマ『樫ノ木は残った』の主人公となった。

● アクセス ●

● 東京駅	山形新幹線 (2時間20分)	● 高島駅
● 仙台駅	仙山線 (1時間)	● 山形駅
● 新潟駅	羽越本線 (45分)	● 高島駅
● 東京駅	東北自動車道 (3時間)	● 高島駅
● 仙台駅	東北自動車道 (40分)	● 高島駅
● 新潟駅	日本海東北自動車道 (40分)	● 高島駅
● 福島飯坂IC	国道13号線 (50分)	● 高島駅
● 山形IC	国道113号線 (1時間)	● 高島駅
● 白土IC	国道113号線 (50分)	● 高島駅
● 荒川胎内IC	国道113号線 (1時間)	● 高島駅
● 坂町駅	米坂線 (2時間)	● 高島駅
● 米沢駅	奥羽本線 (9分)	● 高島駅
● 高島IC	奥羽本線 (40分)	● 高島駅
● 高島IC	奥羽本線 (9分)	● 高島駅
● 高島IC	奥羽本線 (9分)	● 高島駅

お問合せは / (社) 高島町観光協会

〒999-2173 山形県東置賜郡高島町大字山崎200番地-1

TEL 0238(57)3844 FAX 0238(57)4178

高島町観光協会HP ● <http://www.takahata.info>

協賛/大河ドラマ「天地人」山形県推進協議会